

# 特集

## 京都千年天文学街道ツアー

作花一志（京都情報大学院大学）、青木成一郎（花山天文台）

### 1. はじめに

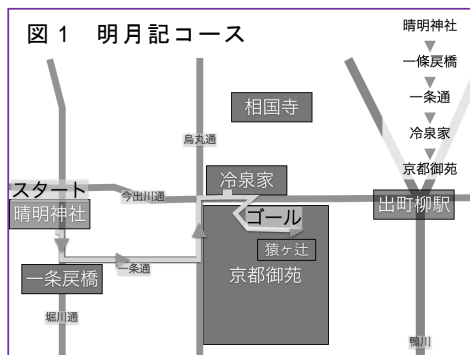
NPO 花山星空ネットワーク[1]では、今年度より京都の天文史跡を巡るという活動を始めた。このような試みはこれまで何回かあったが今回のプロジェクトは小山勝二氏（京大名誉教授）による京都と天文学を結びつける京千年の天文学街道構想の提案に基づく。2010年6月のNPO総会で多数会員の賛同があり、同年年末に総務省の「地域雇用創造ICT絆プロジェクト」（情報通信技術地域人材育成・活用事業）の支援が得られ、天文+歴史+ICTという事業が実現した。3月末までにiPad、iPodなどICT機器の整備、コンテンツの制作が急ピッチで進められ、2011年4月より市民対象のツアーが始った。NPO会員有志約20名が実行メンバーとなっている。



### 2. まち歩き3コース

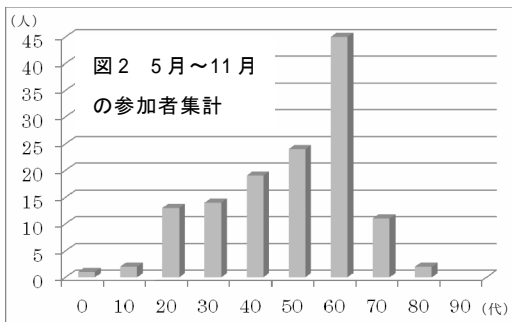
明月記コース、京大コース、花山コースと3つのコースが設けられ、原則として毎週そのどれかを行っているが、最も人気があるのは明月記コース（図1）である。ここでは晴明神社から京都御苑までの平坦な道を約3時間で歩き、平安時代の天文学や都城制度について解説する。安倍晴明の皆既日食やハレー彗星の観測記録などから天文博士としての彼の姿を紹介する。また藤原定家の随筆集『明月記』に記録されている超新星爆発、その記録に関連して星の最期・中性子星・パルサーなどについて解説する。

京大コースでは京大キャンパス、真如堂（もみじの名所）、吉田山を散策し京大天文列伝を解説しているが、これを理解してもらうには



難しい。花山コースは山科から、または蹴上から、花山天文台に上り、観測施設を巡って黒点・プロミネンスなど太陽活動がリアルタイムに観察する。帰路には紅葉の名所で平家物語の舞台ともなっている清閑寺を訪れる。

### 3. 参加者層など



京都新聞では2回ほど掲載されたが、まだまだ知名度が低く、広報募集に随分と時間がかかっている。5月～11月の参加者集計（図2）では圧倒的に60代が多い。中高年の知的好奇心が高いのは結構だが、若者が少ないのは残念だ。来年は金環食とも絡めて広げたい。皆様方もぜひお越しください。詳説、申込などは[2]をご覧ください。

[1] <http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/hosizora/>

[2] <http://www.tenmon.org/>